



# 福山平成大学

## FDニューズレター No.12



発行: 福山平成大学  
FD推進委員会  
〒720-0001  
広島県福山市御幸町  
上岩成正戸 117-1  
084 (972) 5001 (代)  
fd@heisei-u.ac.jp

## 目 次

第11回「私の授業発表会」	1
1. 保健体育科教育法Ⅱ～現場即戦力を目指した保健体育教員の養成に向けて～ (中須賀 巧 講師)	2
2. アーティスティック・ダンス (黒坂 志穂 講師)	3
黒坂先生の授業を拝見して ～ダンス教育の意義と指導方略の重要性～ (中須賀 巧 講師)	4
平成27年度FD講習会報告「実用統計講座」(経営学科 福井 正康 教授、尾崎 誠 講師)	4
平成27年度第1回FD研修会報告「教育活動と著作権」 ～学校教育関係者が知っておきたい著作権～(尾崎 史郎 副学長)	5
平成27年度第2回FD研修会報告「学修指導におけるICT活用」 ～スマホ、タブレット端末、ゼルコバ、セレッソ、ムードルの活用～(坪井 始 副学長)	5
平成27年度学生による授業アンケート調査結果	6
FD関連図書コーナー新着案内	11
平成27年度FD推進委員会活動記録	12

## 第11回「私の授業」発表会

「私の授業」発表会は、今年度で第11回目を迎えました。この「私の授業」発表会は、ペアを組んだ二人の教員がお互いの授業を観察するという形式ですが、今年度は新たな試みとして、対象の授業を公開し、希望する教員は誰でも自由に見学することができる形式で実施しました。

今回の公開対象は福祉健康学部健康スポーツ科学科の若手の2名の先生の授業でしたが、実際見学してみるとお二人の授業は、学生の学習意欲を高めるためのいろいろな工夫をされていて、考え抜かれた計画で授業をされているのがよくわかり、大いに勉強になりました。



それぞれの授業について10名程度の見学者があり、熱心にメモをとりながら、授業の様子を観察していて、大変参考になったのではないかと思います。

発表会自体は平成28年2月18日に本学3号館3203教室で開催され、質疑応答も活発で、大変わかりやすく、とても楽しい説明が多く、有意義でした。

## 授業1

## 保健体育科教育法Ⅱ

～現場即戦力を目指した保健体育教員の養成に向けて～

福祉健康学部 健康スポーツ科学科 講師 中須賀 巧

### 1. 講義概要

保健体育科教育法Ⅱは、保健体育教員を目指す学生が受講しており、講義前半（第1回目から第8回目）は理論や指導方略についての概説を行い、講義後半（第9回目から第15回目）は前半での学習内容を実践に活かす活動体験として模擬授業を行う講義である。理論や指導方略の構築は実際の授業実施の中で必要な自信を培うことができる。ここで取り上げる内容には、体育心理学で用いられる達成目標理論や自己決定理論などの理論が体育指導に応用できること、学習指導（相互作用やマネジメントの重要性）や授業モデル（一斉学習、判別学習、グループ学習、個別学習）の指導方略が種目や子どもの発育発達と相互に関連しながら多様に存在していることなどがある。また模擬授業では、自己の授業に対して省察することで改善点を明確にでき、より精緻な授業へと発展させていくことが可能となる。以上のことから本講義では、具体的かつ実践的な授業づくりができるようになるとともに、教育現場で即戦力となる指導力を身につけた保健体育教諭の養成を目標としている。

### 2. 座学における工夫と効果

講義前半（第1回目から第8回目）は主に講義室で展開する座学であり、そこで行ってきた工夫と効果について紹介する。一つ目は、作成したスライド（パワーポイント）を用いて講義を進め、それにリンクするレジュメ（穴埋め形式）を記入させたところ、多数の学生から意欲的に取り組む姿勢が醸成された。二つ目は、毎回講義の最後に次回までのレディネスを伝え、予習課題を与えることによって学生がスムーズに授業に臨むことができるようにした。三つ目は、一枚のシート（A3用紙）に毎回の講義のまとめを継続的に記入できる「まとめシート」を活用した点である。これにより学生の理解力と文章要約力を向上させることができた。



### 3. 模擬授業体験における工夫と効果

講義後半（第 9 回目から第 15 回目）は体育館やグラウンドで展開する模擬授業であり、実践が主な活動である。そこでの工夫と効果について紹介する。模擬授業前は講義外指導の時間を設け、学習指導案の作成及び修正を徹底した。そこでは、体育授業時に用いる準備物の確認、授業展開の一連の流れの説明、授業目標（めあて）の確認などを併せて行う。模擬授業は、1 グループ 3 名の学生を模擬授業担当者と観察・記録担当者に分け、それ以外の学生には子ども役を務めさせた。模擬授業後は、模擬授業担当者に省察を通して課題を明確にさせ、そこから教員が振り返りと改善点の提案を行うことで、実践ポイントをより深く理解させることができた。また形成的授業評価の記録・分析を通して授業分析力を高めるようにもした。

### 4. 全体を通しての課題

本講義を終えて見えてきた課題を以下に示す。一点目は、模擬授業の映像化の検討である。模擬授業の映像化は、授業全体の可視化や具体的なアドバイスの明示に有効的になると考えられる。二点目は、再模擬授業の時間確保について検討していくことが必要になる。

## 授業 2

# アーティスティック・ダンス

福祉健康学部 健康スポーツ科学科 講師 黒坂 志穂

## 講義概要

ボールルームダンスは、美しい姿勢を保ちながら、規定のステップの中で、男性がリードし、女性がフォローするという特徴的なダンスである。

授業では、相手に優しく接すること、まっすぐに美しく踊ること、感情を素直に身体で表現することに主眼を置き、楽しく美しく踊るための選曲や、服装、相手へのマナーなどについても教授した。





## 観察者コメント

## 黒坂先生の授業を拝見して

## ～ダンス教育の意義と指導方略の重要性～

福祉健康学部 健康スポーツ科学科 講師 中須賀 巧

黒坂講師の実技（アーティスティック・ダンス）を拝見した感想とそこから見えた改善点を以下に示す。まずダンスには、コミュニケーション能力の育成、風土や文化の伝承、ストレス発散、心身の疲労回復、独自の美的表現の創造など様々な効果がある。現在、学校教育ではダンスが必修化となり、ダンスに不慣れな保健体育教員は指導方略の検討や教材研究に四苦八苦している。そういった意味でも保健体育教員養成を担う大学においてダンス実技を取り入れた学生教育は極めて意義深いと考える。ダンスの授業づくりの基本は、勝ち負けを重視するよりも楽しさを重視することが大切である。実技の導入段階は、アップテンポなリズムでダンスに特化した準備運動が行なわれており、学生たちの表情は笑顔に溢れ楽しそうに活動している様子を目視で確認することができた。しかし、展開に移ると、アップテンポな曲調ではなくバラード系の曲調のダンスになり、それまでに行われた準備運動との系統性といった部分が欠如しているように思えた。

展開での主な取り組みは、邦楽PVを一曲分視聴した後、その曲に合わせて決められたステップのダンスを行なうというものであり、黒坂講師も学生に混ざり一緒に学習活動に取り組むといった学生との距離が近い実技に思えた。しかし、実技を指導する上で注意しなくてはならないのが、教員の指導する位置である。今回の実技のように学習活動に教員が混ざり込んでいると一見学生との距離が近く十分な指導が行なえるように感じるが、それは必ずしも正しいとは言えない。観察中に気づいた問題は、実技指導の際に教員が学生の学習活動に混ざり込むことによって、教場全体が巡視できない、全体へのポイントの教示が活動と同時にできない、苦手学生の発見や指導ができないなど多様に存在した。その中でも授業満足感を高めると言われている相互作用が少なかったところは今後の実技授業において改善すべき点である。

以上のように実技の基本的な指導方略に多くの改善は求められるが、ダンスの一端である楽しさの獲得という点については達成できていたのではないかと感じた。

## 平成27年度FD講習会報告

## 実用統計講座

経営学部経営学科 福井 正康 教授・尾崎 誠 講師

平成27年8月20日及び21日に、経営学科の福井正康教授と尾崎誠講師によるFD講習会「実用統計講座」が、本学のコンピュータ教室で開催されました。

このFD講習会は、授業改善と研究への活用を目指して、毎年福井先生を中心に組み立ていただき、今年で8年目になります。1日目は「基本統計」、2日目は「多変量解析」というテーマで、福井先生がご自身で開発された社会システム分析ソフトウェア「College Analysis」を用いて行われました。

参加者は福祉学科と看護学科の教員を中心としたみなさんで、授業改善に役立てようと、熱心に受講していました。

平成28年度にもFD講習会を企画する予定ですので、多数の方のご参加をお待ち申し上げます。



## 平成 27 年度第 1 回 F D 研修会報告

### 教育活動と著作権

～学校教育関係者が知っておきたい著作権～

福山平成大学 副学長・事務局長 尾崎 史郎 氏

平成 27 年 6 月 4 日に、本年度第 1 回 F D 研修会が開催されました。研修は 90 分で、参加者は約 60 名です。今年度は、本学の尾崎史郎副学長を講師に迎え、「教育活動と著作権～学校教育関係者が知っておきたい著作権～」というテーマで、複雑な著作権の基礎知識や、著作物の教育利用において注意すべきことなどについて学びました。

尾崎副学長は、元文化庁長官官房著作権課マルチメディア著作権室長などを歴任された著作権の第一人者で、今年 4 月に本学に新しく着任されました。

ふだん、われわれが使用しているいろいろな教材の多くは、著作権法により保護される著作物です。その著作物で著作権者はどのような権利を有しているか、また、どのような条件を満たせば許諾なしに著作物を利用できるかなどの著作権に関する知識について、豊富な具体的な例を用いて、わかりやすく丁寧な解説がありました。

知っているようで十分理解していなかった著作権の重要性を、体系的に認識することができた、大変有用な研修であったと思います。



## 平成 27 年度第 2 回 F D 研修会報告

### 学修指導における ICT 活用

～スマホ、タブレット端末、ゼルコバ、セレッソ、ムードルの活用～

福山平成大学 副学長・経営学部長 坪井 始 教授

平成 27 年 9 月 18 日に、本年度第 2 回 F D 研修会が開催されました。研修は 90 分で、参加者は約 50 名です。

今回は、本学の坪井始副学長を講師に迎え、「学修指導における ICT 活用」というテーマで、本学でも導入が進んでいる ICT を利用した学修支援システムの、有効な活用法について学びました。

坪井副学長は、本学における学修指導への ICT の導入を積極的に推進しておられます。



学生ポータルシステム「ゼルコバ」、学修支援システム「セレッソ」などの導入、スマートフォンやタブレット端末の急速な普及など、ここ数年でわれわれを囲む ICT の環境が激変しています。これらの環境を十分に活用することにより、教育効果の向上が期待できます。研修では具体的な利用法も含めて、学修指導における ICT 活用のあり方などについて、解説がありました。

今後これらのシステムを活用した学修指導が、活発に行われることが期待できる有益な研修であったと思います。

# 平成27年度 学生による授業アンケート調査結果

## 1. 調査概要

### (1) 実施期間

前期：平成27年7月13日（月）～7月29日（水）

後期：平成28年1月18日（月）～1月29日（金）

### (2) 対象科目

演習・実習等の科目を除く、全科目（履修者数5名未満の科目を除く）

### (3) 実施科目数

前期：217科目

後期：187科目

### (4) 実施方法

科目担当教員が、授業時間中にアンケート用紙を配布し、学生が回収して学務課に提出。

アンケート集計結果は、科目毎に科目担当教員に返却。

大学全体、学部・学科、学年別の集計結果は、各学部、学科に配布するとともに当FDニュースレター等で公表。

### (5) 設問

#### <授業に関する設問>

Q1. シラバス（授業概要）は、この授業の履修の決定や学習に役立った

Q2. 受講にあたって、学習到達目標や注意事項などの説明・指導は、適切だった

Q3. この授業の進度は、適切だった

Q4. 教員の話し方は、聞き取りやすかった

Q5. 板書や視聴覚機器は、見やすかった（聞きやすかった）

Q6. 教員の説明・指導は、わかりやすかった

Q7. 教室や実習・実技の環境・設備などは、適切だった

Q8. この授業は、有意義だった

#### <学生の受講態度に関する設問>

Q9. この授業にきちんと出席した

Q10. 受講マナー（遅刻・早退、私語など）は守れた

Q11. 予習・復習・課題提出など、この授業に熱心に取り組んだ

### (5) 回答方法

- 5段階評価
- 5：よくあてはまる
  - 4：ややあてはまる
  - 3：どちらともいえない
  - 2：あまりあてはまらない
  - 1：全くあてはまらない

### (6) その他

科目担当教員の自由設問および自由記述欄あり。

## 2. 大学全体の結果（図 1）

（上段：前期、下段：後期）

	5. よくあてはまる	4. ややあてはまる	3. どちらでもない	2. あまりあてはまらない	1. 全くあてはまらない	未回答	平均値
Q1 シラバス	32.5%	37.5%	25.6%	2.7%	1.7%	0.0%	3.96
	33.4%	38.7%	24.6%	2.3%	1.0%	0.0%	4.01
Q2 到達目標・注意事項の説明	41.7%	39.4%	16.2%	1.7%	0.9%	0.1%	4.19
	40.5%	40.4%	16.3%	1.9%	0.8%	0.0%	4.18
Q3 授業の進度	46.1%	35.8%	14.9%	2.4%	0.8%	0.1%	4.24
	45.0%	36.8%	14.7%	2.6%	0.9%	0.1%	4.22
Q4 教員の話し方	48.3%	33.8%	13.8%	2.8%	1.3%	0.1%	4.25
	47.0%	34.5%	13.6%	3.4%	1.3%	0.1%	4.23
Q5 板書・視聴覚機器	45.9%	34.4%	15.2%	3.1%	1.3%	0.1%	4.21
	45.0%	34.4%	15.6%	3.5%	1.5%	0.1%	4.18
Q6 教員の説明・指導	46.3%	34.6%	14.6%	3.1%	1.2%	0.1%	4.22
	45.7%	34.0%	15.3%	3.6%	1.4%	0.1%	4.19
Q7 教室の環境・設備・機材	47.4%	34.9%	15.0%	1.8%	0.8%	0.1%	4.26
	46.3%	35.1%	15.9%	2.0%	0.7%	0.1%	4.24
Q8 授業は有意義だった	47.5%	33.7%	14.9%	2.4%	1.2%	0.3%	4.24
	47.7%	33.6%	15.1%	2.3%	1.0%	0.2%	4.25
Q9 出席状況	67.0%	23.1%	8.4%	1.0%	0.2%	0.4%	4.56
	60.7%	26.7%	11.0%	1.0%	0.1%	0.6%	4.48
Q10 受講マナー	61.6%	28.0%	8.9%	0.8%	0.2%	0.4%	4.51
	58.6%	29.5%	10.3%	0.9%	0.1%	0.5%	4.46
Q11 授業への取り組み	49.9%	31.9%	15.2%	2.0%	0.5%	0.5%	4.29
	49.2%	32.2%	15.9%	1.7%	0.4%	0.6%	4.29

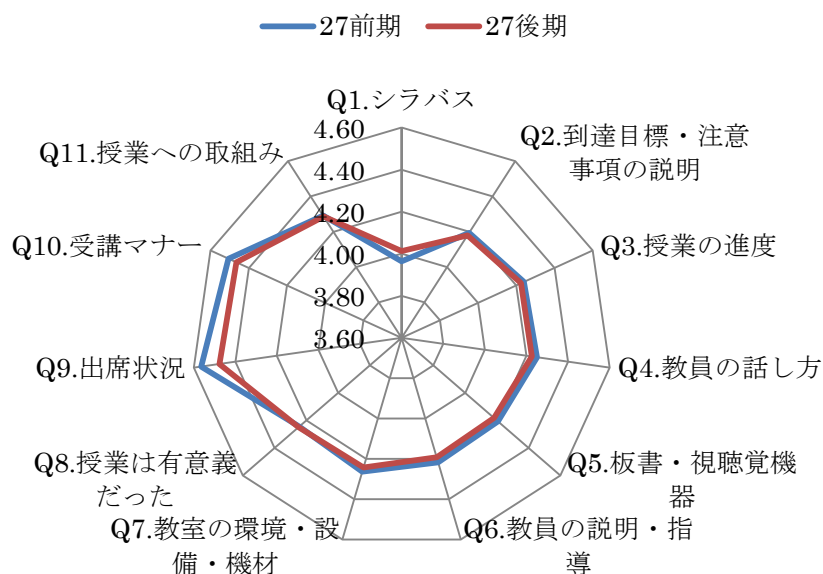


図 1 大学全体の結果（平均値）

### 3. 学年別の平均値（図2）

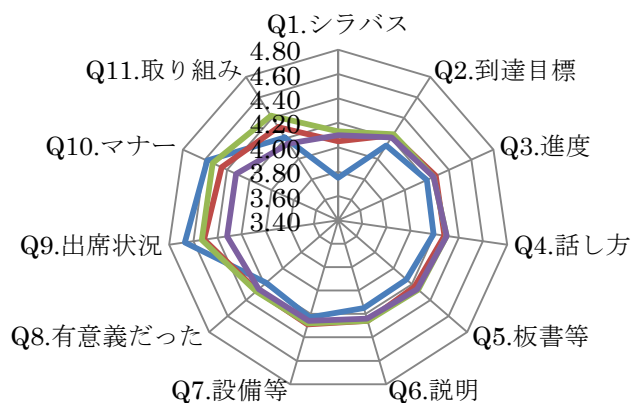
#### 前期

	1年	2年	3年	4年	全体
Q1 シラバス	3.75	4.05	4.13	4.10	3.96
Q2 到達目標・注意事項の説明	4.13	4.23	4.24	4.21	4.19
Q3 授業の進度	4.20	4.28	4.26	4.26	4.24
Q4 教員の話し方	4.19	4.28	4.30	4.30	4.25
Q5 板書・視聴覚機器	4.14	4.23	4.27	4.26	4.21
Q6 教員の説明・指導	4.15	4.26	4.26	4.24	4.22
Q7 教室の環境・設備・機材	4.23	4.29	4.28	4.26	4.26
Q8 授業は有意義だった	4.18	4.28	4.29	4.26	4.24
Q9 出席状況	4.67	4.51	4.53	4.32	4.56
Q10 受講マナー	4.58	4.45	4.53	4.32	4.51
Q11 授業への取り組み	4.21	4.31	4.42	4.15	4.29

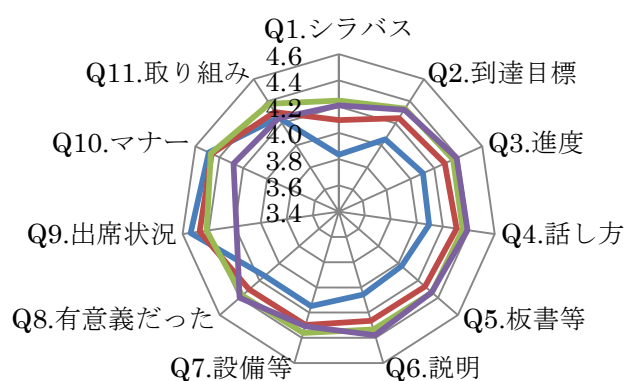
#### 後期

	1年	2年	3年	4年	全体
Q1 シラバス	3.84	4.10	4.25	4.21	4.01
Q2 到達目標・注意事項の説明	4.06	4.25	4.33	4.32	4.18
Q3 授業の進度	4.11	4.29	4.36	4.39	4.22
Q4 教員の話し方	4.09	4.31	4.35	4.39	4.23
Q5 板書・視聴覚機器	4.03	4.27	4.34	4.34	4.18
Q6 教員の説明・指導	4.06	4.27	4.33	4.38	4.19
Q7 教室の環境・設備・機材	4.15	4.30	4.36	4.31	4.24
Q8 授業は有意義だった	4.14	4.30	4.37	4.40	4.25
Q9 出席状況	4.54	4.47	4.42	4.19	4.48
Q10 受講マナー	4.49	4.46	4.47	4.28	4.46
Q11 授業への取り組み	4.25	4.30	4.38	4.25	4.29

— 1年 — 2年 — 3年 — 4年



前期



後期

図2 学年別の平均値



#### 4. 学科別の平均値（図3）

前期

学部・学科	経営学部	福祉健康学部			看護学部
	経営	福祉	こども	健康 スポーツ科	看護
Q1 シラバス	4.02	3.93	4.13	3.97	3.89
Q2 到達目標・注意事項の説明	4.15	4.09	4.35	4.19	4.17
Q3 授業の進度	4.18	4.18	4.36	4.25	4.22
Q4 教員の話し方	4.20	4.13	4.36	4.25	4.26
Q5 板書・視聴覚機器	4.14	4.09	4.32	4.22	4.20
Q6 教員の説明・指導	4.16	4.11	4.34	4.23	4.20
Q7 教室の環境・設備・機材	4.20	4.13	4.41	4.26	4.26
Q8 授業は有意義だった	4.16	4.14	4.39	4.22	4.25
Q9 出席状況	4.23	4.45	4.59	4.41	4.77
Q10 受講マナー	4.21	4.36	4.54	4.44	4.65
Q11 授業への取り組み	4.00	4.15	4.42	4.23	4.38

後期

学部・学科	経営学部	福祉健康学部			看護学部
	経営	福祉	こども	健康 スポーツ科	看護
Q1 シラバス	4.05	4.07	4.15	4.01	3.90
Q2 到達目標・注意事項の説明	4.19	4.19	4.29	4.19	4.10
Q3 授業の進度	4.20	4.25	4.34	4.25	4.13
Q4 教員の話し方	4.21	4.23	4.34	4.26	4.14
Q5 板書・視聴覚機器	4.16	4.19	4.29	4.22	4.09
Q6 教員の説明・指導	4.17	4.19	4.29	4.25	4.09
Q7 教室の環境・設備・機材	4.20	4.20	4.35	4.27	4.19
Q8 授業は有意義だった	4.17	4.28	4.35	4.25	4.20
Q9 出席状況	4.20	4.43	4.50	4.36	4.69
Q10 受講マナー	4.16	4.42	4.52	4.42	4.60
Q11 授業への取り組み	4.05	4.19	4.36	4.28	4.37

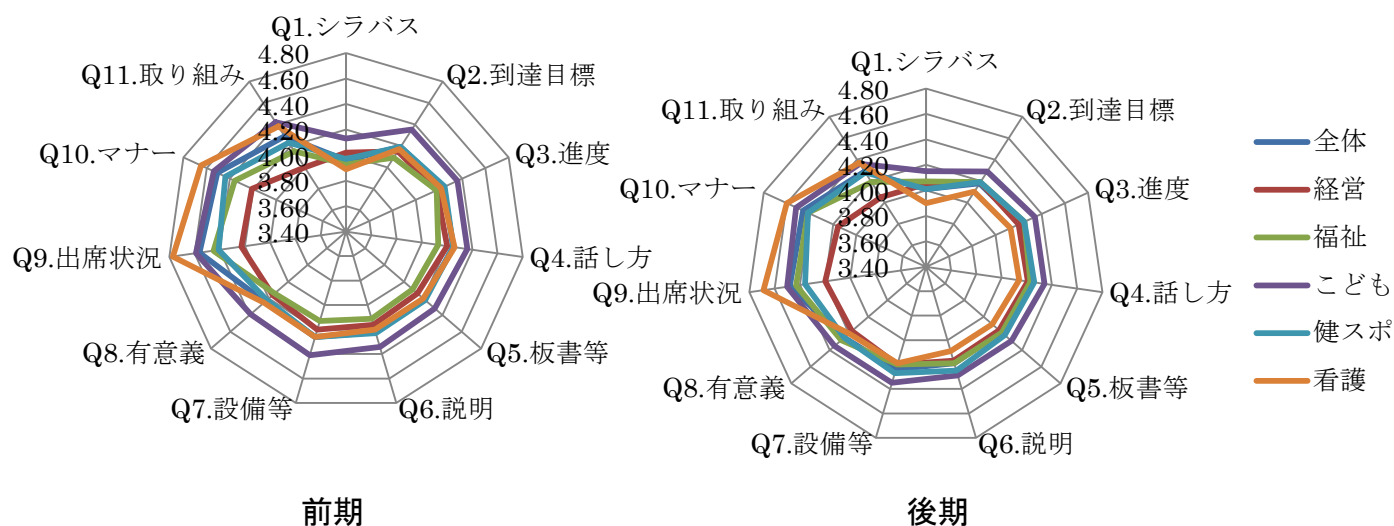


図3 学科別の平均値

## 5. 最近3年間の平均値の推移

	25年度		26年度		27年度	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期
Q1 シラバス	3.93	4.03	3.99	4.09	3.96	4.01
Q2 到達目標・注意事項の説明	4.07	4.19	4.15	4.24	4.19	4.18
Q3 授業の進度	4.10	4.21	4.19	4.26	4.24	4.22
Q4 教員の話し方	4.11	4.22	4.19	4.28	4.25	4.23
Q5 板書・視聴覚機器	4.05	4.16	4.15	4.24	4.21	4.18
Q6 教員の説明・指導	4.07	4.20	4.16	4.24	4.22	4.19
Q7 教室の環境・設備・機材	4.12	4.20	4.20	4.28	4.26	4.24
Q8 授業は有意義だった	4.10	4.21	4.20	4.27	4.24	4.25
Q9 出席状況	4.50	4.45	4.54	4.47	4.56	4.48
Q10 受講マナー	4.43	4.44	4.46	4.45	4.51	4.46
Q11 授業への取り組み	4.17	4.26	4.24	4.30	4.29	4.29

## 6. 各科目の履修者数別の平均値（27年度後期）（図4）

	10名未満	10～24名	25～49名	50～99名	100名以上	全体
Q1 シラバス	4.34	4.14	4.10	4.00	3.73	4.01
Q2 到達目標・注意事項の説明	4.61	4.29	4.26	4.16	3.89	4.18
Q3 授業の進度	4.58	4.35	4.31	4.20	3.95	4.22
Q4 教員の話し方	4.62	4.36	4.31	4.23	3.88	4.23
Q5 板書・視聴覚機器	4.56	4.31	4.29	4.17	3.84	4.18
Q6 教員の説明・指導	4.59	4.31	4.28	4.19	3.86	4.19
Q7 教室の環境・設備・機材	4.59	4.33	4.33	4.22	3.95	4.24
Q8 授業は有意義だった	4.62	4.36	4.33	4.23	3.92	4.25
Q9 出席状況	4.55	4.40	4.44	4.48	4.36	4.48
Q10 受講マナー	4.55	4.39	4.46	4.47	4.35	4.46
Q11 授業への取り組み	4.47	4.28	4.30	4.29	4.12	4.29

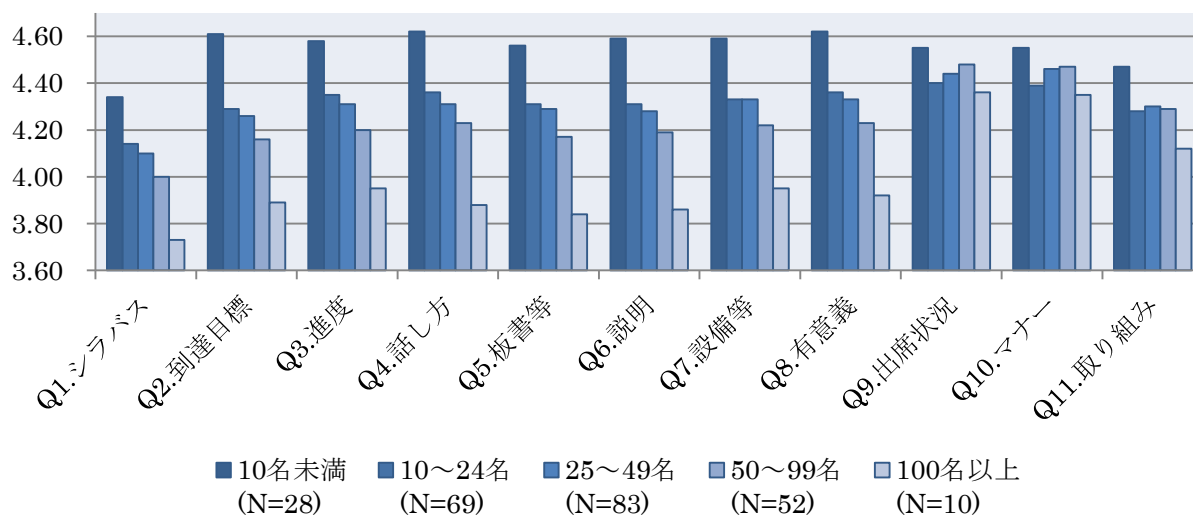


図4 各科目の履修者数別の平均値（27年度後期）

## F D 関連図書コーナー新着案内

本学図書館 1 階の参考図書架に設置されている「F D 関連図書コーナー」では、毎年多数発刊される国内の F D 関連図書の中から、特に有用なものを選定・購入し、蔵書を充実させてきています。

今年度新たに購入した図書の主なものは、次の通りです。

自由に閲覧、貸し出しができますので、多数の方のご利用を、心からお待ちしております。

書 名	著 者 名
学生が変わるプロブレム・ベースド・ラーニング実践法	B. J. ダッチ、S. E. グロー、D. E. アレン
大学で学ぶということ ゼミを通した学びのリエゾン	田中俊也、山田嘉徳
学生相談から切り拓く大学教育実践	設楽友崇、高橋寛子、田中健夫
アクティブラーニング シリーズ大学の教授法 3	中井俊樹
私が変われば世界が変わる 学生とともに創るアクティブ・ラーニング	花園大学アクティブ・ラーニング研究会他
アクティブラーニング実践	小林昭文、鈴木達哉、鈴木映司他
学生サポート大作戦 寄りそう学生支援 シリーズ北九大の挑戦 1	田部井世志子、生田カツエ、北九州市立大学
大学の条件 大衆化と市場化の経済分析	矢野真和
アウトカムに基づく大学教育の質保証	深堀聰子
国際バカロレアとこれからの大学入試改革	福田誠治
教育環境に対する大学生の満足感	榊原國城、安田恭子、若杉里実
コミュニケーション練習帳	土倉玲子
学修支援と高等教育の質保証 1	山内乾史
教師が変わる、学生も変わる	中溝幸夫、松尾太加志、北九州市立大学
もっと知りたい大学教員の仕事 大学を理解するための 1 2 章	羽田貴史
大学における e ラーニング活用実践集	大学 e ラーニング協議会他
アクティブラーニング入門	小林昭文
グループディスカッションのためのコミュニケーション演習	西口利文
弱みを強みに変える本気が目覚めるアクティブ・ラーニング	浮田英彦、日野資成、伊藤文一
アクティブ・ラーニング入門	西川純
ラベルワークで進める参画型教育	林義樹
授業に生かすマインドマップ	関田一彦、山崎めぐみ、上田誠司
学生の学びを測る アセスメント・ガイドブック	リンダ・サスキー、齋藤聖子
大学理念と大学改革 ドイツと日本	金子勉
大学 1 年生のための日本語技法	長尾佳代子、村上昌孝
いまからはじめるアクティブラーニング導入&実践BOOK	小林昭文
学生、大学教育を問う 大学を変える、学生が変わる 3	木野茂
成熟社会の大学教育	渡部信一
大学生学びのハンドブック 3 訂版 勉強法がよくわかる!	世界思想社

## 平成27年度 FD推進委員会 活動記録

平成27年 4月23日	平成27年度 第1回委員会 議題 1) 平成27年度活動計画案 2) その他
6月4日	平成27年度第1回FD研修会 テーマ「教育活動と著作権」 ～学校教育関係者が知っておきたい著作権～ 講師 福山平成大学 副学長・事務局長 尾崎 史郎 氏
7月13～29日	学生による授業アンケート調査（前期）
7月28、29日	「私の授業」公開授業 福祉健康学部 健康スポーツ科学科 黒坂 志穂 講師 福祉健康学部 健康スポーツ科学科 中須賀 巧 講師
8月20、21日	FD講習会「実用統計講座」 講師 経営学部 経営学科 福井 正康 教授 経営学部 経営学科 尾崎 誠 講師
9月15日	平成27年度 第2回委員会 議題 1) 授業アンケートについて 2) その他
9月18日	平成27年度第2回FD研修会 テーマ「学修指導におけるICT活用」 ～スマホ、タブレット端末、ゼルコバ、 セレッソ、ムードルの活用～ 講師 福山平成大学 副学長・経営学部長 坪井 始 教授
平成28年 1月18～29日	学生による授業アンケート調査（後期）
2月18日	第11回 「私の授業」発表会 授業発表と参観報告 福祉健康学部 健康スポーツ科学科 黒坂 志穂 講師 福祉健康学部 健康スポーツ科学科 中須賀 巧 講師
3月3日	平成27年度 第3回委員会 議題 1) 授業アンケートについて 2) その他
3月	FD関連図書コーナー（図書館）蔵書追加
3月31日	FDニューズレター第12号発行

**編集後記** FDニューズレター第12号をお届けします。今年度は、本学の2人の新副学長を講師に迎えて、それぞれの専門分野に関連した研修会を行いました。また、例年行われている「私の授業発表会」に先立ち、授業公開を行いました。誰でも授業を見学できる新たな試みです。実際、他の先生の授業を拝見すると、それぞれいろいろな工夫をされておられる様子がよくわかり、大変参考になりました。今後ともいろいろな試みを導入していき、FD活動がより活性化していくよう努力してまいりますので、どうぞご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。（K. K）